



PICKUP CONTENTS ●1P ニッポン再発見 ●2P トピックス…ウィークリーセミナー・楽楽講座・八日市葬祭フェア・文化講座 ●3P 敬老の日の成り立ち／あかりの贈り物／美知メセナ／淡海の老舗 ●4P フラワーガーデン
アイリスから／アイリス広場／愛読者プレゼント／提携店ご案内



ニッポン再発見⑱

井伊直虎はリボンの騎士か!? IV 「高瀬姫」

NHK大河ドラマ「おんな城主 直虎」に登場した高橋ひかるさんが演じる「高瀬」はいかなる人物なのだろう。NHKの公式サイトでは「亡き直親の隠し子を名乗り、井伊谷へやってきた謎の美少女。井伊家中に大きな波紋を呼ぶが、その正体は…!？」と謎めいた紹介文が掲載されている。

歴史的には余り知られていないが、井伊直政には兄と姉が1人ずついる。直虎の許婚である亀之丞(直親)が今川義元の追及を逃れて信州市田郷の松源寺に逃れていた10年余の間の出来事である。亀之丞は近郷の嶋田村(現飯田市松尾)の代官塩沢氏の娘と恋仲になり、2人の子をもうけたと伝えられている。

井伊谷で小野和泉守が亡くなり、義元が亀之丞殺害の命を撤回したことから、亀之丞は母子に脇差を与え、息子に「井伊吉直」を名乗らせるように言い残して井伊谷に帰還する。塩沢氏は、江戸時代に嶋田村から飯田城下に移り住み、「飯田井伊家」として存続し、脇差を現在に伝えている。

そしてもう1人が「高瀬」だ。彦根藩の記録には「高瀬姫」として伝えているが、生年は明らかではない。

井伊谷に戻り、元服した直親は奥山朝利の娘を妻に迎える。5年間子を授かることができず、6年目によくやく虎松(直政)が誕生する。彦根藩の記録では高瀬姫は直政の2歳上だったとしている。高瀬姫が直親の信州時代の子だとすると計算が合わなくなるのだが、実際のところはまだ明らかになってはいない。

彦根藩の記録を信じるならば、高瀬姫が生まれたとき井伊家当主は直盛だった。直盛は桶狭間で討死。直後に奥山朝利は小野和泉守の後を継いだ小野但馬守に攻め殺された。虎松が生まれたのは、その翌年のことだった。

その後、但馬守は氏真に接近して直親が松平元康と通じていると讒言し、激怒した氏真は直親殺害を命じ、弁解のため駿府へ向かう途中、18人の家来と共に殺されてしまうのだ。虎松の命も狙われることになる。

高瀬姫が井伊家受難の歳月をどのように過ごしたのかは記録には無い。彼女が歴史に登場するのは、虎松が徳川家康に仕官し、天正10年(1582)に元服し直政と名乗った頃からである。高瀬姫は、直政の重臣となった川手主水良則の妻となったのだ。良則は51歳、高瀬姫は24歳だった。井伊家にとって、信頼のおける家臣が

必要だったのだろう。

彦根城築城後は現在の玄宮園辺りに川手屋敷が建てられたが、良則の後を継いだ良則が大坂夏の陣で討死、川手家は滅びる。高瀬姫は、長命を保ち寛永11年(1634)に亡くなっている。長純寺に高瀬姫の供養碑があり、彼女を偲ぶことができる。

「おんな城主 直虎」では、青年になった虎松がそろそろ登場する頃だろうか。遠江から近江へ繋がる物語がどれほど語られるのか楽しみである。 雲行

参考:「井伊家千年紀」増田由季著
「井伊亀之丞と福姫ゆかりのまち飯田市」長野県飯田市観光課



▶長純寺(彦根市佐和町)にある高瀬姫の供養碑

LINE@

アイリスクラブ
LINE はじめました。アイリス会員様にお得な情報を配信いたします。
LINEのお友達登録から「QRコード」または「ID検索: @hya0049s」で登録してください。

TOPIC
1

ウィークリーセミナー
開催しました

平成29年4月23日(日) フィリアホール彦根
「相続税について」 講師:税理士 田井尊之氏



税理士の先生に、相続税のしくみなど基本から対策まで、改正された基礎控除、控除の対象となる葬儀費用など具体的に事例を挙げて解説いただきました。ご息が家を建てるときの土地や資金の贈与額など気になる問題にも言及いただきました。

平成29年4月30日(日) 八日市公益会館
「遺産相続の手続き」 講師:司法書士 田中利和氏



相続法により誰が相続人になるのか? 遺言書のない場合の法定相続人と相続分、注意点など、司法書士の立場から、相続トラブルにならないためのポイントなどを分かりやすくお話しいただきました。

平成29年5月6日(土) 公益社アイリスホール
「お風呂と温泉」 講師:温泉ソムリエマスター 戌亥正三郎氏



冠婚葬祭アドバイザーで温泉ソムリエマスターでもある戌亥正三郎氏に、温泉の知識や正しい入浴法についてお話しいただきました。

温泉は体を温めることで免疫力が向上し美容にも良いと言われてます。温泉の魅力や日常の入浴にも役立つ知識などをわかり、良い温泉のポイントなど様々なテーマごとに理解を深めることができました。

平成29年5月14日(日) 近江八幡公益会館
「葬儀参列マナー」 講師:葬儀マナーアドバイザー つづろゆうこ氏



知っているようで知らないお葬式に参列するときの基本マナーや素朴な疑問など事例を挙げて分かりやすくお話しいただきました。服装から不祝儀袋の表書き、お焼香や献花の作法など、改めて確認できました。

平成29年5月21日(日) 多賀公益会館
「お墓のは・な・し・」 講師:(株)田中家石材 田中寿信氏



お墓建立についての宗旨的な違いや納骨の仕方、お墓を建てる時期など、分かりやすくお話しいただきました。ビデオでは、お墓が完成するまでの工程を観ることができ、普段あまり見聞きすることがないので皆さんの関心度は高いようでした。質疑応答では、墓石の清掃、手入れの仕方など、多数の質問に納得できる回答をいただきました。
(葬祭部:川口尚正)

TOPIC
2

楽楽講座

ーウィークリーセミナー同日開催ー

「オルゴールデコレーション教室」 協力:黒壁オルゴール館
4月23日(日) フィリアホール彦根 / 5月14日(日) 近江八幡公益会館



自分だけのオリジナルオルゴールを作りました。好きな曲を選び、たくさんの可愛いガラスのパーツを本体にのせ、接着剤で固定します。素敵な音色にのせて、くるくる回る自分だけのオルゴールが出来上がり、楽しい時間となりました。

「伝筆(つてふで)教室」 伝筆認定講師:御代麻理子(みよまりこ)氏
4月30日(日) 八日市公益会館 / 5月6日(土) 公益社アイリスホール



自分の字が変わる筆文字の書き方を教わりました。書くごとに変わる自分の字に、気持ちが変わりそうな気がします。最後に「ありがとう」の文字をカードに清書し、自分の落款を朱で入れて完成です。母の日にプレゼントされる方や皆さんの温かい思いが伝わる素敵な作品になりました。

「季節の花の寄せ植え教室」 協力:グリーン永井
5月21日(日) 多賀公益会館

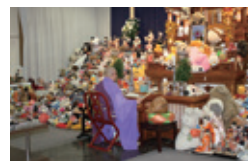


ハイビスカスなど初夏のお花をバランスよくプランターに並べ自作の寄せ植えを作りました。植物の育て方や肥料のやり方なども教わり、それぞれに出来上がった作品を大切に持ち帰られました。

TOPIC
3

八日市葬祭フェア開催しました

平成29年6月10日(土) 八日市公益会館



毎年行われている人形法要祭では、今年もたくさんのお人形やぬいぐるみが祭壇横のステージに並べられ、ご導師の読経のもと丁寧にお供養されました。法要祭に参加された皆さま一人ひとりがお焼香をされ手を合わせられている姿が印象的でした。私たちスタッフも「ありがとう」の感謝の気持ちと共に焼香させていただきました。屋外では恒例の花ひろば市やこの時期ならではの「新茶の詰め放題」、飲食コーナーなど大変賑わい、今年も皆さまと触れ合うことができた楽しい一日となりました。
(葬祭部:堀内勇人)

TOPIC
4

文化講座「浴衣の着付け講座」&内覧会
開催しました

平成29年7月9日(日) フィリアホール彦根



夏祭りや花火大会が始まろうとしている7月、フィリアホール彦根において浴衣の美しい着付けを教わりました。最初に講師より浴衣を着る順序の説明を受け、着付けの手順やコツを教わり、帯もしっかり結び一人できちんと着られるようになりました。ご自身の浴衣姿をプロのカメラマンに撮影してもらい大満足!皆さんの晴れやかな笑顔が印象的でした。
(葬祭部:藤田大典)

敬老の日の 成り立ち

以前は敬老の日は9月15日でした。これには2つの俗説があります。

聖徳太子が四天王寺に身寄りのない方の施設、今でいう老人ホーム「悲田院」を建立したのが9月15日でした。2つ目は「養老の滝」説、身体の弱い父親に親孝行の息子が、不思議な滝の水を飲ませたところ、これが甘い美味しいお酒でした。この滝のお酒で父親の病氣も治りました。このことを耳にした帝が家臣を連れて「滝」を確かめに来ました。そして親孝行の滝として「養老の滝」と名付けたのです。帝がこの地を訪れたのが917年9月中旬だったので、そのことにちなんで9月15日としました。

真説は、兵庫県多可郡野間谷村の村長が昭和22年に「としよりの日」を提唱しました。お年寄りを大切に、昔から伝わる知恵を借りて稲作りをしようという理由からでした。これが全国に広まりましたが、「としよりの日」は良くないので昭和38年に「老人の日」と変更したのです。さらに、国民の祝日にしようという働きがあり、昭和41年に「敬老の日」になりました。その後、2001年にハッピーマンデー制度で、9月15日から現在の9月第3月曜日に移行されたのです。

「敬老(年寄)」とは何歳からを指すのでしょうか？平均寿命が男81歳・女87歳の現在には難問です。よく「還暦」を迎えたら、年寄りと言いますが今の60歳はまだ現役です。

最近の「敬老会」の入会案内は65歳～70歳の間に届くことが多いようですが、何せ今のお年寄りとはとにかく元気です。

このような超長寿国の老人は、従来のような年祝いをしてもらうどころか、定年後や第二の人生をどう生きていくかを真剣に考えなくてはならない時代です。

又その後に続く壮年層も青年層も、父母・祖父母の世話をどうするかということだけでなく、自

分自身の問題として深刻に考えなくてはならない人生の課題があります。

かつて老人は、男であれ女であれ農村でも都会でも、生活活動や社会生活を行うための豊かな経験(知恵)と技能(知識)を持っていました。そのような老人たちは、年若い人々からおのずと尊敬され、家庭でも地域でも重きをなす存在だったのです。

ところがその後、日本経済の高度の工業化や情報社会の激しい波にあらわれて、老人たちの役割は極端に少なくなりました。むしろ現在の社会情勢について行けない、情報量の乏しい厄介者扱いにされかねない状況にあります。高度成長に振り回され、バブルの崩壊、家族制度の変遷、核家族による老人世帯の増加、少子高齢化の影響、長寿による認知症問題等で老人たちは先行きに、大いなる不安を感じています。けれども本当はそれはおかしいのです。敬老の日に言う「多年にわたり社会につくしてきた」老人は過去の実績だけでも「敬愛」される資格があると思うのです。

戦後の復興と今の繁栄は、おもにこれらの人々の賢明な努力や企業戦士としての働きによって実現されたものであり、功労によるものと言えます。しかもこれらの老人は、今後とも役割がないわけではありません。

日進月歩の技術的な知識などには、関与の余地はないかも知れないが、多年の多様な経験などから得られた知恵は、次の世に必ず伝えてもらわねばならないのです。それには老人と青壮年の相互信頼と日常的な交流が必要です。

基本的に大切なのは、自分を生み育ててくれた老親に対する「敬愛」の心を、若い夫婦や子供達を持つことです。この気持ちを単に身内の老親だけでなく、近所や、さらに社会一般の老人達にも持つ、若い人たちが増えてくれば有難いと思います。多少の福祉や年金よりも、子や孫たちの若い世代の人々のさりげない心遣いの方が、はるかに老人を励まし慰めることになるであろうと、「敬老の日」に際してつくづく思うのです。

(猫田文吾)

もう10年以上も通い続けているという常連のお客さんに店の印象を尋ねると、「人の心を思いやることのできる店だ」という答えが返ってきた。「三太寿司」から「三太」へ……、そしてその思いやりは、今もそしてこれからも変わることもなく受け継がれていくことだろう。



協力 三太 彦根市京町3-7-40・tel.0749-22-2775

あかりの贈り物

花ローソク

協力 ペガサスキャンドル(株)

ローソクと言えば、お仏壇やお墓に使用する白いローソクを思い浮かべますが、お盆やお彼岸などのお供え品にもご利用いただける、かわいいうろうろソックスをご紹介します。

「あかりの花めぐり」は四季折々の花をモチーフにしたフローティングキャンドルです。和菓子のような上品な色合いと質感にこだわった月々のお花に願いを込めて、華やかなで静寂なあかりを灯してみたいかがでしょう。

詳しくは公益社までお問い合わせください。



あかりの花めぐり



公益社のエコ活動

美知メセナ



昨年の秋に植え替えたパンジーは、冬の寒さにも負けずきれいに咲き続けてくれました。季節も夏に向かう6月、夏に強いマリーゴールドと日々草へ植え替えました。まず、雑草を全て取り除き、新しい花を植えたつづりとお水をあげて完了です。毎月の全体清掃活動と除草、毎日の水やりを元気に続けてまいります。(総務部:宮井香織)

伝統

淡海の老舗

彦根市京町の「三太寿司」は、50年以上続く老舗の寿司店だった。「だった」と過去形なのは、今年5月にご主人の杉本美津男さんが亡くなり、現在は娘さんが後を継いで店名を「三太」とし、居酒屋メニューでの営業を行っているからだ。

三太寿司の創業は昭和39年。定食屋の次男として生まれた美津男さんは、京料理の老舗「木乃婦」で修業を積み、故郷に戻り寿司店を開いた。20代前半だったという。以来50年以上、この地で寿司を握り続けてきた。新鮮な魚を仕入れるために、毎朝京都や岐阜に買い付けに通うこともあった。

創業当時、彦根市内に20軒以上あった寿司店も、生活スタイルの変化や回転寿司チェーンの台頭などにより現在では3分の1程度に減ってしまった。そんな中、三太寿司は形を変えながらも店を続け続けている。

FLOWER GARDEN IRIS から

6/30(金)から7/2(日)の3日間、アイリス多賀にて「ビタミンカラーのベジタブルアレンジ教室」を開催しました。


和気あいあいとした雰囲気であったアレンジ教室では、「野菜もアレンジ出来るのねー!」と驚きの声も。その後のランチタイムはにぎやかな笑い声で梅雨空を吹きとばすような楽しい3日間となりました。



▶ 笑い声の絶えないサロン



▶ お子様の作品


今年もやります!!
「秋の花まつり」
9/20(水)~24(日)

今回はみなさまのお声にお応えして
寄せ植え教室も。もちろん春に大好
 評だった**日曜マルシェ**もOPEN!!
 詳しくは同封のチラシをご覧ください。
 ぜひ お待ちしております♥

 IRIS フラワーガーデンアイリス	<p>■ HIKONE 彦根市小泉町696番地 tel.0749-26-8783 fax.0749-26-4141</p>	<p>■ TAGA 犬上郡多賀町多賀1479番地 tel.0749-48-2333 fax.0749-48-2555</p>
---	---	--

アイリス広場

Q & A

- Q** 家族葬が増えているようですが、葬儀とは故人が生前お世話になった方々に最後のお別れをする場であると思っています。考え方は人それぞれですが家族葬とは?(東近江市:男性)

A 時代の変化を象徴するように、その人らしい最後のお別れを希望されるご遺族の思いが表面化したものが「家族葬」です。家族葬というものには、定義や決まりはありません。故人様の生前のお付き合いに対し、お別れの場とするのが本来の葬儀・告別式ですが、一方で喪家のニーズの多様化も現実としてあります。悔いのないよう故人様をお送りし、ご遺族が納得しご満足いただけるよう、残すべき儀礼というものを絶えず考え発信してまいります。
- Q** 散骨の法規制について教えてください。(彦根市:男性)

A 日本では、厚生省が「墓地・埋葬法」について「散骨のような葬送の方法については想定しておらず、法の対象外」としています。また、法務省は「節度をもって葬送の一つとして行われる限り違法ではない」との見解です。行政機関への届け出は特に必要ありません。

ご愛読者プレゼント

会員のみなさまに日頃の感謝の気持ちを込めて



Special for you

「淡海の老舗」でご紹介 三太様

お食事券ペア 10組 20名様

応募締切
平成 29年 9月 15日(金) 必着

*イメージイラスト

抽選で
今10組
20名様に

- 同封の応募ハガキのアンケートにお答えのうえ、必要事項を記入しご応募ください。
- 当選された方にはプレゼントお渡し日をご連絡させていただくと共に、次号にて発表させていただきます。

vol.62 中嶋製菓舗様 和菓子詰合せ ご当選者

彦根市:種村義次様・問覚進一様・加藤栄一様・外川富士夫様 東近江市:井上久司様・中村忠様・天津誠様 近江八幡市:今西美穂子様 犬上郡多賀町:仁保卯一様 愛知郡愛荘町:前田和子様

虹

アイリスクラス
提携店ご案内

会員のみなさまの暮らしに役立つお店を紹介するコーナーです。詳しくは各店にお問い合わせください。

新規提携店

会員特典 ご宿泊金額より**8%割引**



彦根で安価なホテルとして家庭的なサービスと充実のお食事ビジネスや観光・各種団体・合宿等でご利用頂いております。「当ホテルは和室が多く1室2名3名4名最大8名様迄ご利用頂けます。ご家族様でのご宿泊に最適なお宿です。」

ビジネスホテル芹川
〒522-0083 彦根市河原2丁目8-4
tel.0749-26-2750

新規提携店

会員特典 近江の地酒・ふなずし **5%割引**
(多賀・七本槍・琵琶の長寿)



多賀大社前にある地酒のお店です。地元を代表するお酒「多賀」だけでなく近江路厳選の地酒も取り揃えています。また、ふなずしや琵琶湖産の鮎など滋賀県ならではの土産も置いてあります。

地酒の店 大津屋
〒522-0341 犬上郡多賀町多賀603
tel.0749-48-2201

新規提携店

会員特典 ワイン(一部対象外)300種類以上レジにて**15%割引**



酒蔵、ワイナリーで作られた美味しいお酒をそのままお届けしたいという想いから、日本初!店舗内全体の温度・湿度管理に放射型冷却装置を導入!本当に旨いを知っているからこそ、お客様にもそのままお届けしたい!酒正のこだわりをぜひ!!

酒正株式会社
〒529-1315 愛知郡愛荘町沓掛380
tel.0749-42-2475

前号Vol.62の掲載内容に誤字がありましたので訂正しお詫び申し上げます。「日本の暦の不思議と歳時記」在位30年の節目に**上位**を望まれている。(誤)上位→(正)讓位

公益社は、24時間365日いつでも対応いたします

株式会社 公益社 本社: 〒522-0054 滋賀県彦根市西今町939番地
TEL.0749(22)5000 FAX.0749(22)0042

ご葬儀のご相談・ご依頼・資料のご請求は

☎ 0120-61-4000

今回の虹の色は「どんぐり色」。どんぐりの色も季節によってさまざまです。緑色したものから深いブラウンまで季節を追って変わっていきます。宮沢賢治の『どんぐりと山猫』では、「草のなかに、あっちにもこっちにも、きんいろのまるいものが、ぴかぴかひかっているのです。」と、黄金色をしているのです。